

館名変更については、令和3年(2021年)2月定例会議に関連条例案を上程予定

滋賀県立美術館運営方針(案)

■「かわる、かかわるミュージアム」としてのミッションステートメント(使命と行動指針)

私たち滋賀県立美術館は、1984年に滋賀県立近代美術館として開館しました。収蔵点数は2020年3月現在で1,786件と県立の美術館としては比較的小さい規模ではありますが、日本画家の小倉遊亀や染織家の志村ふくみのコレクションは国内随一を誇っています。また、マーク・ロスコやロバート・ラウシェンバーグなど、いわゆる戦後アメリカ美術を代表する作家の良作を収蔵していることでも知られていますし、2016年からは、アール・ブリュットの作品の収集もスタートさせました。教育普及活動でも、開館当初から実施しているワークショップやアートゲームを用いた鑑賞教育などの先進的な取り組みは、全国に誇れるものです。

改修工事のための一時休館を経て、2021年6月に再開館するにあたり、私たちは「かわる、かかわる」をコンセプトに歩みだします。まず、私たちは時代や傾向を限定することになる「近代」を、館名から外します。今日の美術館のミッションは、「人がつくった様々なものに触れることを通じて、社会や環境の多様性をより深く感じられる場をつくること」にあると考えるからです。滋賀県立美術館は、そのミッションを実践していくために以下のことを行っていきます。

創造(Creation)と問いかけ(Ask)

滋賀を中心にして、障害のあるなしに関係なく、また、ジェンダーバランスにも留意しながら、創造の場を支えます。その上で、「アートって、人間にとってなんなんだろうか」という問いを考えたいような展示を実施するとともに、これまで以上にユニークなコレクションをつくりあげていきます。

地域(Local)と学び(Learning)

「滋賀っておもしろい！」と皆が言いたくなるように、県内の個人や企業・団体の協力を得ながら、地域の多様な魅力をリサーチして広く発信します。また、県民を中心に、子どもから大人まで、ビギナーから学者まで、ユニバーサル理念のもとに、一人ひとりの学びに貢献するプログラムを実施します。

これら「創造(Creation)」「問いかけ(Ask)」「地域(Local)」「学び(Learning)」の4つ(CALL)を軸にすることで、滋賀県立美術館は、これからますます変動していく社会に対しても、柔軟にかわりながらかわり続けることができるはずで、そして、この「つねにフレッシュなミュージアム」というモデルを滋賀から発信し、今後の展開へと結びつけたいと考えています。

■経営方針

- ◇多様な利用者や県民への美術館機能の提供と満足度の向上
- ◇より多くの個人や法人からの共感・支援の輪を広げることによる持続的な運営努力
- ◇地域の現場や県内外の関係機関との有機的な連携・協働
- ◇作品保全・展示・鑑賞環境の確保とさらなる充実

■事業方針

美術館の活動の根幹となる調査や研究の成果に基づいて、以下の事業を行います。

□美術品収集事業

- ◇すでに形成されている以下の特色あるコレクションの拡充
 - ①日本美術院を中心とした近代日本画
 - ②滋賀ゆかりの美術・工芸等
 - ③戦後アメリカと日本の現代美術
- ◇すでにあるコレクションを相対化するための以下の作品の収集
 - ①アール・ブリュット
 - ②芸術文化の多様性を確認できるような作品
- ◇コレクションを良好な状態で次代に継承するための管理と修復

□展覧会開催事業

- ◇以下の方針を軸とした展覧会および関連事業の企画・実施
 - ①特色あるコレクションの活用
 - ②創造現場との積極的な交流
 - ③地域ゆかりの文化財等滋賀の多様な文化の紹介
 - ④他機関との協働による研究成果の発信等
 - ⑤建築、舞台芸術、音楽、写真、文学等他ジャンルとの交差

□教育・コミュニケーション事業

- ◇以下の方針を軸とした教育・コミュニケーション活動の企画・実施
 - ①学校現場と連携した美術教育プログラム
 - ②様々なニーズや世代にあわせた鑑賞・体験プログラム
 - ③館内や地域での活動のパートナーとなるボランティアの充実
 - ④地域の団体や、大学、企業等と連携して行う取り組み
 - ⑤美術館のファンやリピーターの獲得を目指すメンバーシップ制度

□社会とのかかわり

- ◇SDGsや共生社会の実現に貢献する活動
- ◇経済界や観光等との連携による滋賀の活性化に資する活動
- ◇県民や団体による創作活動の発表の場としてのギャラリー運営

□リンクと発信

- ◇びわこ文化公園の立地環境を活かした取組や連携
- ◇(仮称)新・琵琶湖文化館と連携した活動
- ◇県内の美術系ミュージアムや関西・中部圏のミュージアムと連携した活動
- ◇県内外、さらには海外も視野に入れた情報発信による美術館と滋賀の認知度の向上